

シラバス情報

| | | | |
|------------|--|--|--------------|
| 授業方法 | 講義 ・ 実験 ・ 実習 | | |
| 系 列 | 実 習 | | |
| 科 目 名 | エンジン整備 | | |
| 必修・選択 | 必修科目 ・ 選択科目 | | |
| 対象学科 | 一級自動車整備科・二級自動車整備科 | | |
| 年次学期・曜日・時限 | 2年後期 ・ 月～水曜日 ・ 1 時限～ 8 時限 | | |
| 時 限 数 | 60、8 時限（期末試験を除く） | | |
| 担当教員名 | 入江 正和 ・ 八木 孝治 ・ (他 1 名) | | |
| 実務経験 | 有 ・ 無 | | |
| | 国土交通省に認証された事業場における保守・点検・分解・組立など自動車整備士としての経験を活かし、整備を行う上で必要となるエンジン整備の基礎知識についての実習を実施する。 | | |
| 授業の目的 | ガソリン・エンジンの点検・測定を繰り返し行うことで、正確な測定方法を身に付けこと。及び、現行のエンジンに採用されている機構について確認を行う。 | | |
| テキスト | ①実習テキスト（学校編集） ②二級自動車整備士（総合）（日本自動車整備振興会連合会 発行） | | |
| 授 業 計 画 | | | |
| 授業回数 | テーマ | 内容・方法等 | 使用テキスト 範囲 |
| 第 1 回 | エンジン分解・測定・組付け | バルンサ機構が搭載されている直列 4 気筒エンジンの分解・点検・測定・組付けを行う。 | ①、② |
| 第 2 回 | | | |
| 第 3 回 | | | |
| 第 4 回 | | | |
| 第 5 回 | エンジン分解・測定・組付け 及び試運転 | 車両よりエンジンを降ろし分解・点検・測定・必要に応じて部品交換等を行い、再度車両に搭載し試運転を行い整備に不備がないことを確認する。 | ①、② |
| 第 6 回 | | | |
| 第 7 回 | | | |
| 第 8 回 | | | |
| | ステップ試験（中間試験） | 第1回～第8回までの授業内容に関する実技試験 | 別途課題 |
| | 期末試験 | 第1回～第8回までの授業内容に関する実技試験 | |

| | |
|-------------------|---|
| 到達目標 | 繰り返し作業することにより、より正確な分解・測定・組付けを習得すること。 |
| 成績評価方法 | 平常点（小テスト、レポートやノートの提出とその評価、出席及び授業態度）、ステップ試験（中間試験）並びに期末試験を合算して行う。 |
| 定期試験受験資格 | 開講された全時限に出席し、レポート・ノートの提出が完了している者。 欠席した時限がある場合は、補講も完了している者。 |
| 成績評価基準 | <p>成績評価は、期末試験の点数が40点以上を満足した上で、100点を満点とする整数について、次の割合で行う。</p> <p style="margin-left: 40px;">中間試験の点数 30%</p> <p style="margin-left: 40px;">期末試験の点数 40%</p> <p style="margin-left: 40px;">平常点 30%</p> <p>上記の割合によって学期末の評点が60点以上である場合、以下によって評価する。</p> <p style="margin-left: 40px;">60～69点＝可、70～79点＝良、80～89点＝優、90点以上＝秀</p> <p>60点未満の場合、再試験を行い、試験点のみで60点以上のとき履修を認定し、成績は60点＝可とする。</p> |
| 成績評価できない 場合の基準 | 全講義を終了時点の出席率が50%を満たしていない場合、 又は、成績評価が60点未満の場合。 |